

# 岩元 亮祐さん

2016年度大学院考古学研究室入学、2018年度卒業  
美祢市教育委員会事務局文化財保護課



山口県の美祢市教育委員会事務局文化財保護課に所属し、埋蔵文化財の保護業務と史跡長登銅山跡の調査・整備を担当しています。考古学に関連する行政職に令和元年より奉職しており、現在3年となりました。埋蔵文化財の保護業務は、開発業者への対応・調整、遺跡の調査など多岐に渡り、悩みながら日々精進しています。

他大学から京都府立大学大学院に進学し、考古学を学びました。在学中より、さまざまな調査に参加し、考古学における調査の技術やチームで作業することの重要性を学びました。史跡長登銅山跡の調査・整備業務では、既往調査成果の報告書をまとめる作業を行っており、在学中に習得したこういった技術や心得が役立っています。

## ▼インタビュー

### Q1.歴史学科のよいところは？



通信制の高校に通っていたとき、せっかく大学に行くなら自分の好きなことをしたいと思って、大学で歴史を学ぶことにしました。学部で4年間通った天理大学もそうですが、京都府立大学の歴史学科も人数がそう多くない。他大学より**少人数制で1人の先生が指導する人数が少ない**ので、手厚く見てもらえました。

特に考古学は発掘などがあり、1人でやるというよりはみんなでやるという感じで、**仲間意識**が生まれて仲良くなりやすいのかなと思います。ちょうど私が修士1回生で府大歴史学科に入ったとき、学部3回生だった男子たちととても仲良くやっていました。ほかの大学と比べて、**課外活動としての調査が多い**のもいいところですね。

### Q2.在学中にやっておいてよかったことは？



大学で行われる**発掘調査**にはできる限り参加しました。考古学を教える大学でも、発掘調査を行う大学は多くはありません。京都府立大学では実習の中で発掘調査が行われているので、積極的に発掘調査に携わることができます。発掘調査を行える環境は当たり前ではありません。この環境を大いに活用してほしいと思います。

また、時間のある限り**外に出て様々なものを見に行ってみてください**。自分にとって有益になるものが何なのかは、見てみなければわかりません。ジャンルにとらわれず、何にでもまず興味を持って見に行ってください。それを見るとき、自分が軸足を置く学問の視点でモノを眺めると新しい発見があることもあります。そのためにも、様々なモノを自分の目で見ることで知見を増やしてほしいと思います。例えば電車に乗っているとき、気になる広告があったら参加してみるなど、気軽に始めてみてください。

### Q3.現在のご職業を選んだ理由は？



最も大きな理由は、考古学を専攻して8年間考古学と関わり、楽しいと感じていたので、**好きなことを仕事にしたい**と思ったからです。また、遺跡の保護と調査を両立することで、自身の仕事を次の世代に繋ぎ、文化財を未来へと紡いでいくことができるというのも理由の1つです。もう1つの理由は、勉強してきた身についた技術を使いたかったからです。

### Q4.ご職業のやりがい・大変なことは？



埋蔵文化財・遺跡の調査がメインの仕事です。土器の写真を撮って実測し、報告書作成もしています。美祢市としての文化財保護の内部体制が整っておらず、大規模な発掘調査を行えないということもあり、これから**どのように埋蔵文化財を守っていくのかを考えなければいけない**という大変なこともあります。

この仕事のやりがいは、**人と人のつながりが感じられる**ということです。文化財・遺跡を管理してくださっている方や集落の人たちとのつながりが深く感じられます。



▲今年度調査した長登銅山跡内の施設

山間部の史跡の草刈りは業者ではなく地域の方に依頼するという形で雇用を生むなど、定期的に顔を合わせて仕事をする機会ができることで地域コミュニティが形成され、人々が史跡に入りこまきかけとなっています。

### Q5.文化財職に就きたい人に アドバイスをお願いします！



文化財職は募集の少ない業界です。選別は大切ですが、**えり好み**をしないでとにかく試験をたくさん受けてください。**やりたいのであればまず入ってみる**ことが大切です。文化財職を目指す人は大学院に進学する人が多いですが、学部生で内定が決まれば無理に大学院へ進学する必要はないと思います。

もちろん「好き」という気持ちは大切ですが、それだけでは続かない部分もあります。文化財職はモノを扱う仕事ではありますが、発掘に携わる業者さんや地域の方などと**コミュニケーション**をとる機会も多いので、**コミュニケーション力も重要になる**と思います。

この仕事は、歴史学科であれば自分の極めた学問をフィードバックできる職業です。まずは**歴史学科での勉強に全力で取り組んでほしい**と思います。文化財職でなくとも、大学の勉強で身につく理論的に考える力などは必ず役に立ちます。どんな学問であっても、大学での勉強を熱心に取り組んでほしいと思います。